

## 教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-a8 地域で健康に暮らす未来を創造する		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	永田 康浩	責任部局	医学部医学科
趣 旨	<p>地域で健康に暮らすことは人々の願いです。しかし現実には、そこに様々な障壁が存在します。「ライフ；Life」は「生命」とも「生活」とも訳されますが、このモジュールではライフ；Lifeを脅かす障壁とそれを克服する方略について多面的に考えます。健康を脅かす疾病を原因と断定することにとどまらず、発症に至る過程で関わる多様なファクターにも目を向けます。これにより生物・心理・社会的に疾病を捉えて新たな健康観を育んでください。その先に、それを未然に防ぐ、あるいは共存する生活についてアイデアを巡らせることで新たな健康観が芽生えることを期待します。健康に暮らすには医療だけで物足りないことに気づくはず。みなさんでWell-beingな未来を創造してください。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	あり	説明動画	 11月下旬掲載
学生の皆さんへのメッセージ	医学部の担当科目ですが、易しく解き明かします。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
地域医療の進化と真価	永田 康浩 川尻 真也 野中 文陽 二里 哲朗	リウマチ性疾患や糖尿病などの慢性疾患は地域で暮らす上での健康課題となっています。単に薬物療法だけではなく、未来の治療法として社会的アプローチを交えて取り組む克服のストラテジーを皆さんと一緒に考えていきましょう。	慢性疾患、生物・心理・社会的アプローチ	○
Well-beingな未来の創造	永田 康浩	健康を脅かす疾病を原因と断定することにとどまらず、発症に至る過程で関わる多様なファクターにも目を向けて、生物・心理・社会的に疾病を捉えて新たな健康観を育んでください。みなさんでWell-beingな未来を創造しましょう。	Well-being、生物・心理・社会的アプローチ	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B	
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力	やり取り	国際関・地域社会	取入り文科学の内容を	取り扱科学の内容を
地域医療の進化と真価	◎	○	○		○						◎		○
Well-beingな未来の創造	○	○	○		○		◎	○	○	○	○	○	○
◎（特に重視）の数	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	
○（重視）の数	1	2	2	0	2	0	0	1	1	1	1	2	

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-a9 疾患の分子標的とクスリの開発		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	益谷 美都子	責任部局	医学部医学科
趣 旨	病気を治すための薬は標的分子に特異的に働き、作用を発揮することが期待されます。がんや感染症を中心に薬の標的分子がどのように探索され、評価されているかを理解します。さらにがんや感染症を中心に薬の開発がどのように製薬会社や研究機関で行われ、臨床試験を経て使用されるか、国内や世界的な開発状況を学び、薬の開発に関わる情報の分析と批判的理解ができるようになることを目標とします。		
プラネタリーヘルスとの関連性	がんや感染症などは国内だけではなく、世界共通な問題であることが多く、薬の開発は国内のみならず、国外と協力して行われることも多くあります。国外とも協調して研究開発がどのように行われるかを理解します。	説明動画	 11月下旬掲載
学生の皆さんへのメッセージ	皆さんはインフルエンザなどの感染症の薬や他のさまざまな薬のお世話になって来たと思います。またがんは2-3人に1人がかかる病気と言われ、薬の開発が行われています。薬で問題になる副作用のいくつかは、薬が本来の標的分子以外に作用することから生じます。標的分子の探索から薬の開発が国内や国外でどのように進められているか、自分で情報収集をして分析や批判的理解ができるような力を身につける機会にしましょう。		

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
疾患の分子標的の研究	益谷 美都子 Tong Ying 大滝 大樹 有海 康雄	病気を治すための薬は標的分子に特異的に働き、作用を発揮することが期待されます。がんや感染症を中心に薬の標的分子がどのように探索され、評価されているかを理解します。	疾患、がん、感染症、薬	○
分子標的薬の開発	Tong Ying 益谷 美都子 池田 裕明 水田 賢志 有海 康雄	がんや感染症を中心に薬の開発がどのように製薬会社や研究機関で行われ、臨床試験で評価されているか、国内や世界的な開発状況を理解し、薬の開発に関わる情報の分析と批判的理解ができるようになることを目標とします。	疾患、がん、感染症、薬、免疫療法、開発	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	へ国際・地域社会	取リ扱ウ科学の内容を	取リ扱ウ科学の内容を
疾患の分子標的の研究	◎		○		◎				○	○	○	○
分子標的薬の開発	◎		○		◎				○	○		○
◎（特に重視）の数	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
○（重視）の数	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2	1	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

## 教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-a10 くすり～過去・現在・未来～		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・水産学部		
テーマ責任者	石原 淳	責任部局	薬学部
趣 旨	<p>“生命とは何か？”という問いに、明確な答えは無いかもしれませんが。しかし命ある地球上の多様な生物は、化学物質で構成され、すべての細胞や組織では、複雑な化学反応系によって、高次の生命活動が営まれ、統御されていることは、明確です。薬は、これらの生命活動に直接関与することによって生体内の化学構造や機能の異常を改善するために用いられてきました。また、一方、期待されない障害を与えたことも事実であり、それもまた薬の本質ともいえます。これまでの人類の病気との戦いの中で、発見された薬の歴史も振り返りながら、生命現象と薬のかかわりを学習することにより、生命とは何かを科学的に思考したいと思います。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	プラネタリーヘルスの観点から、生命現象と薬のかかわりを学習し、生命とは何かを科学的に考察します。	説明動画	 11月下旬掲載
学生の皆さんへのメッセージ	<p>人類が、薬を見出し、使用してきた歴史は古く、薬と共に歩んできた長い道のりは文化史の一部とも言えます。本科目では、どのような薬を飲めば病気が治るのか、どのように使われるのか、といった実用上の知識を得ることを目標にしているわけではありません。薬が生体にどのように作用し、病気を治癒することができるのか、どのようにして開発されてきたのか、を正しく理解するためには、化学物質である薬、生体のしくみ、病気の原因などの基本的な知識が必要です。本科目では、これらの知識をわかりやすく、そして正しく理解できるように工夫します。また、その知識をもとに、薬を科学的かつ歴史的側面からも見つけ、学習します。薬というキーワードで、生命現象を共に考察してみませんか。</p>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
高齢化社会と地域医療・薬とのかかわり	向井 英史 鳥羽 陽 安孫子 ユミ 吉田 さくら	長崎県は高齢化社会の先進地区であり、将来の日本の重要な医療モデルである。出島に近代西洋科学が導入されたくすりの歴史から、現在の高齢化社会の疾病とくすりの使われ方まで、医療経済を含めて、長崎県を起点として高齢化社会におけるくすりとの付き合い方を学ぶ。	くすり、高齢者、医療、医療経済、長崎県	○
伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	石原 淳 福田 隼 小嶺 敬太	人類の病気との戦いの歴史は、医薬品創成の歴史でもある。経験的に見いだされた伝承薬や天然物から発見された医薬品、コンピュータによってデザインされた医薬品など、医薬品はどのように合成し供給されるのか。化学が医薬品開発に果たしてきた役割を学ぶ。	医薬品 化学合成 天然物	○

	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	国際・地域社会	取人文科学の内容を扱う	取社会科学の内容を扱う
高齢化社会と地域医療・薬とのかかわり	○	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	○
伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	○	◎		◎	○	○		◎	◎			
◎ (特に重視) の数	0	2	0	1	0	0	0	2	2	1	0	0
○ (重視) の数	2	0	1	1	2	2	1	0	0	0	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

## 教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-a11 病気と薬を考える		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・水産学部		
テーマ責任者	西田 孝洋	責任部局	薬学部
趣 旨	これまで人類はさまざまな病気を克服してきましたが、癌など未だに治療困難な病気、新しい感染症、メタボリックシンドロームなど、私たちが向き合わなくてはならない病気はまだたくさんあります。そのような病気との闘いで最も重要な役割を担い続けているのが「薬」です。しかし、多くの薬は使用法を誤れば毒であり、薬の有効性と安全性を理解して適正に使用することが非常に重要です。本テーマでは、医療現場でのさまざまな疾患に対する薬物治療と、薬が体の中でどのように働いているのかについて学びます。また、薬の開発の歴史や健康食品についても科学的に考えます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	古来より人間は、地球に存在する物質をくすりとして、またくすりの原料として利用してきました。地球が不健康になれば、資源枯渇の危機に陥ります。つまり地球の健康を保つことが、私たち人間の健康を保つ鍵なのです。		
学生の皆さんへのメッセージ	最近の法律改正で、薬を適正に使用しその有効性と安全性の理解が国民の義務として定められました。薬局やインターネットで欲しい薬がいつでも手に入り、薬の安易な使用で副作用のリスクが増えたことが背景にあります。また、最先端の薬により多くの病気が治療できるようになった反面、作用の強さは副作用のリスクを伴うことを理解することが求められています。本テーマでは、この病気はどのような薬を飲めば治るのかといった実用上の知識を得ることを目標にしているではありません。実際の薬物治療がどのような考えのもとで行われているのか、薬が生体にどのように作用して病気を治すのか、薬の開発のもととなった薬草や毒草、そして健康食品について学ぶことで、薬の恩恵とリスクについて自分で考えられるようになることを目指します。		
	説明動画		 11月下旬掲載

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
薬との賢い付き合い方	西田 孝洋 麓 伸太郎 宮元 敬天	薬の効くしくみや体内での動きを理解すること、また、医薬品の影の部分（副作用）を知ることは、一消費者として薬と賢くつきあうためばかりでなく、生体の機能を知り、生命現象の理解を深めることにもつながる。この科目では、いくつかの薬（習慣性薬や癌治療薬など）を例に取り、薬と賢く付き合うために、生命科学分野以外にも医薬経済学、薬事、薬史学、医薬倫理学といった、社会科学的、人文科学的分野についても学ぶ。	薬理作用、体内動態、副作用、癌、生活習慣病、麻薬、向精神薬	○
疾病と薬物治療	塚元 和弘 平山 達朗	自律神経失調、高血圧、がん、感染症および喫煙関連疾患について、疾患や病態の概念と治療法（薬物療法を含む）について学ぶ。さらに、日常生活習慣との関連とその改善法について考える。	人間の健康・疾病・治療法・生活習慣	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力ややり取り	国際・地域社会	取人文科学の内容を	取り扱う科学の内容を
薬との賢い付き合い方	○	◎	○	○	○	◎	○	◎	◎	○	○	○
疾病と薬物治療	◎	◎	○	○	○	◎	◎	◎	○	○	◎	○
◎（特に重視）の数	1	2	0	0	0	2	1	2	1	0	1	0
○（重視）の数	1	0	2	2	2	0	1	0	1	2	1	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目